

新宮山彦ぐるーぷ 第1751回

### 行仙宿 棚・配膳机の脚作製

◇ 平成26年2月24日(月)～25日(火) 両日共晴れ

◇ 参加者 眞砂民雄、田中稔昭 計2名

作業内容は、行仙宿の棚・椅子・配膳机の脚を製作すること。  
資材の杉・桧が3日前にへりで荷揚げされたので、この両日、  
一泊二日の計画で行仙に上がった。

2月24日(月)11:30℃ 浦向 425号線 浦向で、眞砂

さん田中が落ち合う。眞砂さんは軽トラ四駆ノーマルタイヤ、  
田中は乗用二駆スノータイヤで補給路登り口へ向かう。道中下  
半分の道路に雪は全く無い。山を見上げてても日陰の谷筋に僅か  
に積雪を認められる程度。道中上半分では、除雪された雪が道  
路脇に少し残る。12:00登り口に到着、昼食を取る。身支  
度をしていると1台の軽トラが通りかかり、斜面のコンクリー  
ト吹き付け工事中で、この林道はその請負会社が除雪したとの  
こと。お陰でここまで難なく来ることができた。

同13:00 アイゼンを着け山小屋へ出発 補給路と浦向下り

径出会い辺りまで上がって来ると、北斜面部分では積雪が30  
～40cm残っている場所がある。浦向方向には小動物の足跡  
が少しあるものの、人が歩いた跡はなく新雪のまま。ヤマガラ  
二羽が木に留まりチーチー鳴く。周辺の雪景色が美しい。  
こんな雪の中、雪山登山気分で、大変清々しい。

同14:10 5℃ 山小屋到着 通常ならば、先ずは水汲みの

ところであるが、21日(金)のへり荷下ろし時にミネラル・ウオ  
ーター12リットルも上げて頂いていたので、荷ほどきを事始  
めに早々に作業開始。柱・棧のべっぴん(綺麗)な面が正面にくる  
よう考慮して配材↓墨付け↓手鋸で加工を進める。

同17:30 3℃ 作業終了 山の日没は早い。夕暮れが近く  
なってきたので、作業終了。この2日間で棚を完成させようと  
二人は思っているが、この時点で明日完成するか少々不透明。

同18:00 眞砂風猪鍋 レシピは、猪肉+玉ネギ+酒+醤油  
+砂糖だけで水は使わない。少し甘めにするのがコツらしい。  
旨い！

昔、牡丹鍋を食べたことはあるが少し臭みがあった気がする。  
しかし今回のものは、肉は大変あっさりで適度な甘みがあって、  
いくらでも食べられる。しばらくで無くなってしまった。取り  
置き熊野三山を頂きながら、話が弾む。いつの間にか時刻は  
10時、そろそろ寝ることにする。

同24:00 0℃ ロケットストーブは生き物か？ 一眠り後

目覚めて、おき火に薪を入れる。再び勢いよく燃える。手が届  
くほどのすぐ横に寝て、真つ暗な中で下から見上げる角度から  
燃え盛るストーブの表情を見ると、耳があり目がある、頭  
の皿もある。耳・目・皿から勢いよく炎が噴出している。まる  
で生命力に溢れた生き物のように思えてくる。

が、煙、臭気に対しさらなる改善策はないだろうか、ロケット  
をもう少し延ばしてはどうだろうか等思案したが、勉強不足で  
結論は出ない。

**2月25日(火)07:00 3℃** 朝食は簡素で、湯で温めて食べるご飯、味噌汁、梅干し、海苔を食す。

**同07:45 棚作り再開** 棚は4段物。杉の棚板72枚を切る作業から始める。手曳き作業なので結構時間を要する。

**同10:00** 玉岡憲明さん、畑林秀味さんが上がってこられる。様子見がてら、我々の昼食に秋刀魚寿司等豪華な差し入れの頂きご馳走になる。古い棚の撤去をして頂く。役場に用があるとのこと、14:00に下山された。

**同15:00 9℃ 作業を終える** 棚板の貼り付けの一部を残して作業終了し、後片付け、戸締りをする。下山時もアイゼンを着ける。道中の雪は、心持ち昨日より少なくなっただけ。

**同16:45 補給路登り口へ下山** 残る作業(棚・椅子・薪入れ他)の為、近い内に再び来ることを申し合わせ、浦向で眞砂さんは169号線へ、田中は425号線へそれぞれ帰路に就く。

(眞砂・田中 記)

